

# 激動する国際情勢と北朝鮮

ウクライナ情勢やパレスチナ・イスラエル戦争が北東アジアに与える影響

三村光弘

(新潟県立大学北東アジア研究所)

# 世界秩序の「多極化」

- 米国を中心として、先進国首脳会議（G7）や欧州連合（EU）、北大西洋条約機構（NATO）メンバーが世界の中心にいた時代の終焉
  - 米国による中国のライバル視（オバマ政権期）→敵視によるデカップリング（トランプ政権期）、デリスキング（バイデン政権期）
  - 2014年のウクライナにおける「マイダン革命」による親口派大統領の力による追放（2016年の韓国のように弾劾ではなく政変劇）に始まる西側のロシア敵視
  - 2022年2月のロシアのウクライナ侵攻とそれに対する西側諸国のロシアに対する最大級の経済制裁

# 世界秩序の「多極化」

- 米英欧日の中央銀行に預託されていたロシアの外貨準備金を凍結した経済制裁
  - 債務者が債権者の預金の残高を任意に「ゼロ」にできるモラルハザードの発生→中国、インド、ブラジルなどロシア以外の新興国も同様の目に遭う可能性があり警戒
- 新興国（BRICS、G20-G7の国々）、発展途上国（G77など）の台頭
  - 西側先進国とは異なる文化、考え、利害関係を持った国々
  - 多くの国は西側先進国に植民地支配された経験

# 新興国や発展途上国の対応

- ウクライナ紛争

- ロシア寄り、ウクライナ寄り、中立など差異はあるが、西側諸国（日本を含む）の経済制裁には不参加
- ロシア、ウクライナ両国と国交を維持しながら、貿易、投資関係は続ける
- 「紛争に巻き込まれない」ことに注力

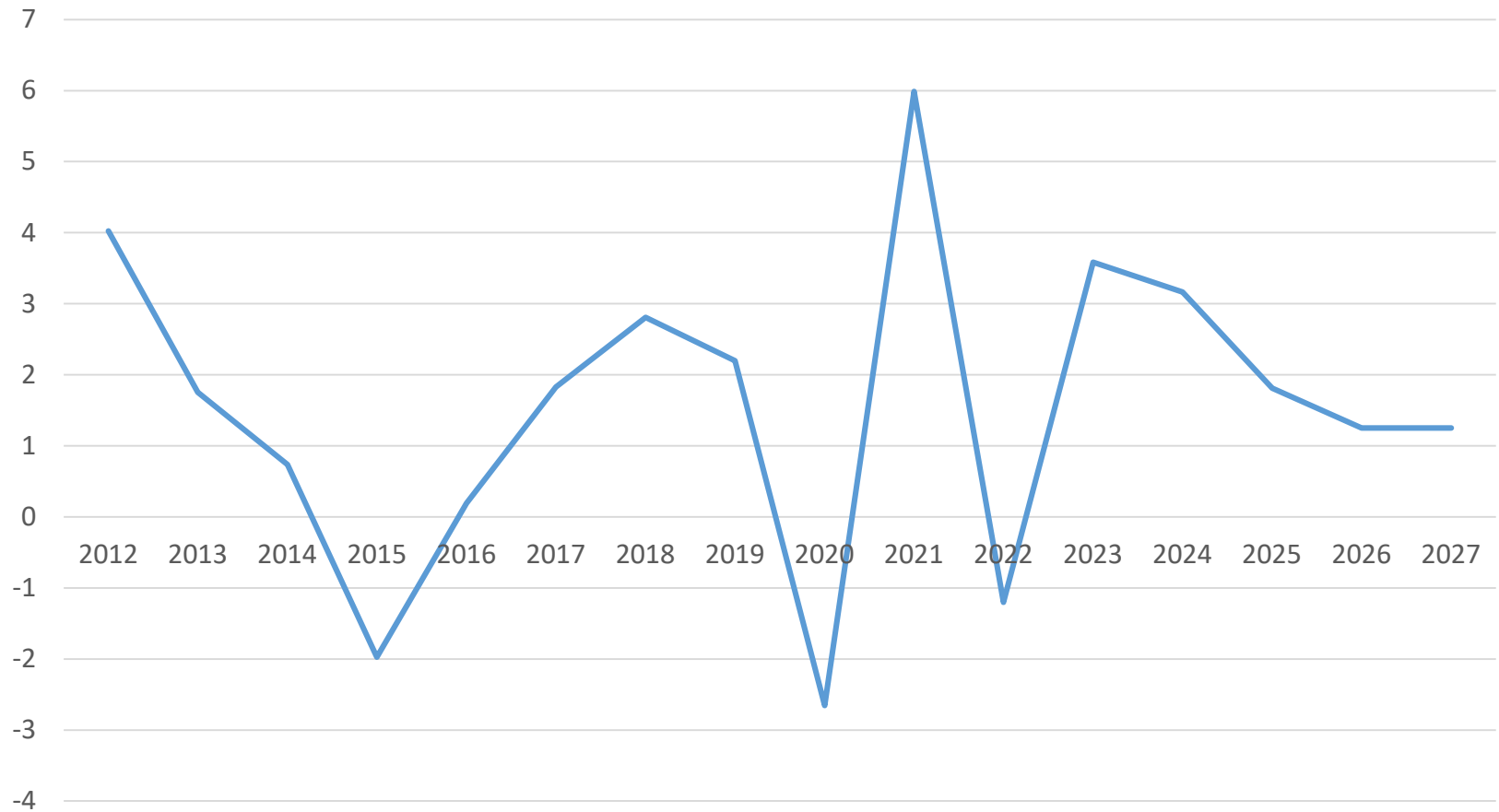
- パレスチナ・イスラエル戦争

- イスラエルの武力行使を制止するどころか支持する西側諸国（日本を含む） = 人権における「二重基準」に幻滅

# 新興国の対応

- **BRICS**（中国、ロシア、インド、ブラジル、南アフリカ）にエジプト、エチオピア、イラン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦が新規加盟（2024年1月）→さらなる加盟も
- 上海協力機構（**SCO**：中国、ロシア、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン、インド、パキスタン）→アラブ首長国連邦、ミャンマー、クウェート、モルディヴが対話パートナー参加国（2023年5月）、イランが加盟（同7月）、バーレーンが対話パートナー参加国（同7月）
- 自分たちの力量に見合った尊重と影響力行使

# ロシアの実質GDP成長率 (%)



(出所) World Economic Outlook Database (2024.4) (注) 2022年以降は推計

# 中口のリーダーが語る「多極化する世界」

- 西側諸国とは異なる価値観を持った国々が、その考えを捨てることなく存在できる時代の到来
  - 2023年2月 習近平国家主席のロシア訪問時
  - 2023年5月 大祖国（対独）戦争勝利記念日でのプーチン大統領の演説

# 北朝鮮とウクライナ問題

- 北朝鮮は2014年3月27日にロシアによるクリミアの併合の無効性について採択した国際連合総会決議68/262から、ロシアのウクライナ侵攻後の現在に至るまで、ロシア非難の国連総会決議には一貫して反対票
- 2022年7月13日には「ドネツク人民共和国」と「ルガンスク人民共和国」を国家承認
- 「かつて、米国の不当で不法な対朝鮮敵視政策に積極的に同調して国家間の関係において公正さと正義にいちじるしく欠ける行為を働いたウクライナ」（『朝鮮中央通信』2023.7.15）



# 北朝鮮のコロナ後の「外交の季節」の始まり

- 2023年7月27日 朝鮮戦争「戦勝節」に中国とロシアから代表団
- 2023年9月12日～18日 金正恩国務委員長のロシア訪問
  - ボストチヌイ宇宙基地（アムール州）、コムソモルスク・ナ・アムーレ（ハバロフスク地方）、アルチョム、ウラジオストク（沿海地方）

# 朝ロ外相の相互訪問

- ラブロフ外相の北朝鮮訪問
  - 2023年10月18～19日
  - 金正恩国務委員長に面会
  - 崔善姫外相と会談
- 崔善姫外相のロシア訪問
  - 2024年1月15日～17日
  - プーチン大統領を表敬訪問、アレクサンドル・ノバク副首相と面会
  - ラブロフ外相と会談

# 一連の関係強化の成果

- 日朝間の政府代表団や文化代表団の交流は2024年に入って活発
- 「双方は、朝鮮半島地域の安全環境、特に朝鮮民主主義人民共和国の主権的権利と安全利益を重大に脅かす米国とその同盟勢力の無責任で不当な挑発的行為が地域と世界の平和と安定に及ぼす否定的影響について深い懸念を表し、国連憲章とその他の国際法に徹底的に立脚し、両国の対外政策機関の緊密な協同と共同歩調で地域情勢を調整していくことで合意した」  
(崔善姫外相訪問時の『労働新聞』報道)

# 米韓は口朝間の関係を疑う

- **2024年2月26日** 韓国の申源湜国防相は、韓国メディアとの懇談会で北朝鮮が**2023年7～8月**以降、ロシアに対し、コンテナ約**6700**個分の砲弾を提供したとの分析を示す
- **2024年3月18日**には米国務省で北朝鮮問題を担当するジュン・パク副次官補が、北朝鮮がロシアに対し、武器を積んだコンテナを**1万**個以上送ったと明らかにする
- 口朝両国はこのような事実を否定

# 口朝関係強化が北東アジアに与える影響

- これまで孤独であった北朝鮮に安全感を与える
  - 2023年12月末に開催された朝鮮労働党中央委員会第8期第9回総会拡大会議と、2024年1月15日に開催された最高人民会議第14期第10回会議において、金正恩総書記／国務委員会委員長は、韓国を統一の相手と見なすことを止め、敵対する国家間の関係、交戦国の関係とすると宣言
- 中長期的には韓国との「冷たい和平」に移行していく可能性
- 中口が北朝鮮を事実上の核保有国と認めると非核化には相当の時間がかかることになる可能性

# 朝鮮半島の非核化に対する対立が生じる可能性

- 日米韓→北朝鮮の完全な非核化、その後日米との関係改善
- 中口朝→漸進的な核軍縮を経て、新たな米朝関係の樹立や朝鮮半島の恒久的平和体制の完成後に非核化の完成
- すでに北朝鮮は非核化を否定→実質的に核保有国だが、それを認められない日米韓と現実からアプローチしようとする中口朝の違いは大きい

# 日本は核を持つ北朝鮮とどう向き合っていくのか

- 日本の核武装が非現実的であるとすれば、北朝鮮との間には非対称的な関係が存在
- 米国との安全保障協力を通じた拡大抑止の維持・拡大
- 北朝鮮との関係を構築し、北朝鮮の安全感を増進することにより緊張を緩和する日本独自の行動を政策オプションとして検討する必要性
- 中国やロシアとも連携を取り合って、地域の緊張を緩和する方向で動くことも重要

ご清聴ありがとうございました